

災害に強いまちづくりの実現に向けて

近年、全国各地で豪雨災害をはじめ、地震などの自然災害が相次いで発生し、甚大な被害をもたらしています。東日本大震災以降では、震度7を2度観測した2016年(平成28年)熊本地震、そして2018年(平成30年)には西日本を中心とした「平成30年7月豪雨」など、これまでの想定を超えた自然の猛威が各地を襲いました。

こうしたこれまでの経験を基に、和気町ではいつ起こるか分からない災害の発生に備えて、対策の強化を図っておりますが、災害が発生した場合、町や防災関係機関の対応だけでは立ち向かうことはできません。被害を最小限にとどめるためには、自助・共助を、町民の皆さま一人ひとりに心掛けていただき、実践することが大切です。

このハザードマップは、地震・洪水・土砂災害に関する情報のほか、災害情報の入手方法やマイ・タイムラインの作成など、より実用的な内容となっております。ご家庭のみならず地域や職場など、あらゆる場面でご利用いただき、災害時に備えていただきたいと思います。

目次

見出し	内容	ページ
はじめに	和気町ハザードマップについて	1-2
地震	和気町で想定される地震	3-4
	日頃から地震に備えよう！	5-6
洪水	台風や豪雨に注意しよう！	7-8
土砂災害	大雨、地震による地盤のゆるみに注意しよう！	9-10
ハザードマップ	ハザードマップを確認しよう！	11-12
	索引図	13-14
	ハザードマップ	15-36
	想定し得る最大規模の大雨に備えて	37-38
災害への備え	指定緊急避難場所・指定避難所一覧	39-40
	避難所での過ごし方	41-42
	非常持出品、備蓄品/災害情報の入手先	43-44
マイ・タイムライン	マイ・タイムライン	45-46



2016年(平成28年)「熊本地震」



2018年(平成30年)「平成30年7月豪雨」

和気町ハザードマップについて

ここ和気町では、近年大規模な自然災害は発生していません。しかし、町域の7割以上を占める山地部では、近年多発している集中豪雨等による土砂災害発生のリスクが高くなっています。一方で平地部では、岡山三大河川の1つである吉井川を筆頭に、金剛川、初瀬川、王子川など、吉井川支流沿いに市街地が形成されており、ひとたび洪水が発生すれば甚大な被害をもたらす恐れがあります。

災害はいつ、どこで、どの程度の規模で発生するかわかりません。「その日」は数年後、数十年後、あるいは明日かもしれません。

自分や大切な人を守るためには、起こりうる災害を理解し、日頃から適切な備えをしておく必要があります。

このハザードマップには、さまざまな防災に関する情報を掲載していますので、あらかじめ目を通していただき、みなさん一人ひとりの災害に対する日頃の備えに役立ててください。

1 家の位置を確認し、避難経路を考えよう

あなたの家の場所をマップに書き込み、最寄りの避難場所・避難所を複数選びましょう。



2 実際に避難場所・避難所まで歩いてみよう

地図で選択したそれぞれの避難場所・避難所までの経路を確認しましょう。また、避難経路が安全かどうか、避難にどのくらい時間がかかるかについても確認しましょう。



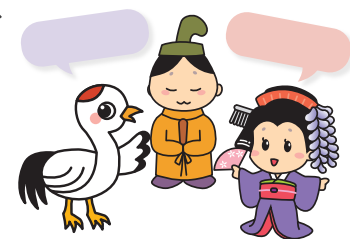
3 家の周りの災害の危険性を確認しよう

あなたの家は、土砂災害による警戒区域もしくは、浸水が想定されている地域ですか？家の周りにブロック塀などの危険な場所はありませんか？



4 災害や避難について、話し合ってみよう

あなたの家だけでなく、家族の職場や学校、よく行く場所などについても避難所や危険性を確認しましょう。



マイ・タイムラインを作ってみよう

マイ・タイムラインは、大雨や台風が接近しているときに自分や家族が「いつ」「何をやるのか」をあらかじめ決めておく計画表のことです。いつ災害が起こっても落ち着いて行動できるように個人や家庭の実情に合ったそれぞれのマイ・タイムラインを作成しておきましょう。

詳細は45-46ページへ！

